

### 今年の乾土効果は「小さい」と推定されます。 一発除草剤散布前の落水でワキ対策！

#### ●乾土効果の推定値

水田農業試験場における調査では、今年の乾土効果は「**小さい**」と推定されています（表1）。

今後の気象によっては茎数確保が遅れる心配もあるため、以下のポイントを参考にしっかりと水管理を行い、初期生育の確保に努めましょう。

表1 乾土効果の推定値（水田農業試験場）

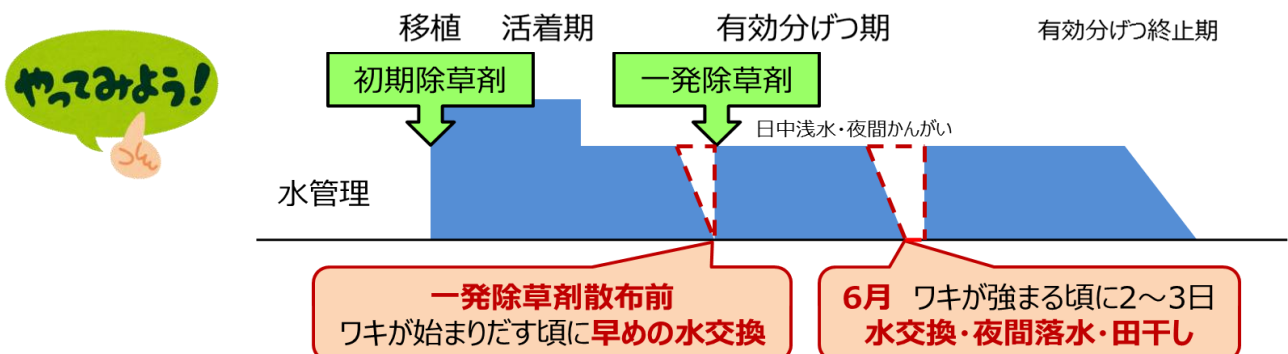
年次	乾土効果	発現量推定値 (Nkg/10a)
<b>本年</b>	<b>小さい</b>	<b>0.5</b>
H30	平年並～やや小さい	2.7
H29	小さい	0.7
H28	平年並	6.9
H27	大きい	8.1

#### ●移植後の水管理のポイント

下記ポイントを参考に、**活着が確認されたら水深2～3cmの浅水管理で分けつの発生を促進しましょう**。初期生育の取れにくい中山間・山間地域等や、流水温の低い所では、温水チューブ等を活用して、水温上昇に努めましょう。

- ① 田植後は、活着するまで水深4～5cm程度にして、葉身からの蒸散を抑え、新根の発生を促す
- ② 活着したら、水深2～3cmの浅水で水温を高め、分けつ発生を促す
- ③ 均平でないほ場では、高い部分の田面が出ない程度の水深を保つ
- ④ 日中は止水にし、できるだけ水温を高める
- ⑤ 入水は、夜間か早朝に行う
- ⑥ 強風や低温が続くときは、水深をやや深めにして稲体を保護する
- ⑦ 除草剤を散布した後は、7日間は止水し、落水・かけ流しはしない
- ⑧ **一発除草剤散布前に田面水の交換を行う（下記参照）**

一発除草剤散布後は、7日間湛水状態を保つ必要があるため、その間に土壌の還元が進んでしまい、生育遅延が生じやすくなります。表層剥離やアオミドロによる除草剤の拡散ムラを防ぐためにも、**除草剤散布前に水交換**を行い、入水後に除草剤を散布しましょう。



## ● 土壌の異常還元（ワキ）対策について

仙台管区気象台が5月16日に発表した1か月予報では、向こう1か月の平均気温は、**高い確率が60%**と予報されています。

分げつ期に晴天・高温の日が続くと、土壌の還元が進み、根の生育に悪影響を及ぼします。特に、軟弱苗を移植したり、田植後に植え傷みしたりしたほ場では、土壌還元による生育停滞が起こりやすくなり、分げつ発生が劣り、土壌窒素を生育中～後期まで持ち越す可能性があります。ワキの程度に応じた**“早めの水交換”**、**“夜間落水”**、**“2～3日程度の田干し”**を行い、根の活力を保ちましょう（表2）。

表2 ワキの程度に応じた対策

ワキの程度	生育への影響	対策	
		分げつ初中期	分げつ盛期
水田に足を踏み込むと <b>気泡の発生が多い</b> 。	程度小 ↓	水交換	
水田に足を踏み込むと <b>盛んに気泡を発生する</b> 。	↓	夜間落水	
晴天時自然に気泡を発生し、音がする。 水田を歩くと <b>著しく気泡が発生する</b> 。	大	田干し (2～3日)	間断かんがい、 田干し

## ● 表層剥離に要注意

表層剥離や藻類（アオミドロ等）が発生すると、地温・水温の上昇を妨げ、生育を遅らせる原因になります。普段から浅水管理にすると発生を抑制することができます。もし発生した場合は、一時的に夜間落水して田面を落ち着かせる、または、表層剥離や藻類に効果がある除草剤を散布するなどの対策をとりましょう。

## ● 農薬だけに頼らない病害虫対策を

カメムシ対策 ⇒ **雑草対策の徹底** が基本です。農道・畦畔等の除草により、斑点米カメムシ類が生息しにくい環境をつくりましょう。

いもち病対策 ⇒ **補植終了後は置き苗をただちに処分** しましょう。管内のいもち病初発は、置き苗由来となることが多くなっています。土中に埋没させる等、対策を徹底しましょう。

農薬はラベルをよく読み、適正に使用しましょう。

春季農作業事故防止運動強化中